

研究の背景・目的

【背景】

本校演習林（写真1）の所在地でもある上川町は、最盛期にとても活気のあった林業が、近年では著しく衰退していることを知りました。そこで、上川町と北大FSC、そして本校の3者が連携する「上川林業アップデート事業」を通して、製品を開発・製作し、上川町や上川町産のシラカンバ材のPRを実施することとしました。

上川町から「上川町には高齢者が多いため、家族からおじいちゃん、おばあちゃんへの贈りモノとなる素敵なもの」というテーマをいただき、私たちは昨年度から製品の製作を開始しました。



写真1 旭川農業高校の天幕演習林

【目的】

○ 製作する製品の決定

▶ オリジナル孫の手（動物の手）の製作

テーマをもとに、自然豊かな上川町をイメージして野生動物がモチーフとなるデザインとしました。

- 1 上川町の森と家族をつなぐきっかけとなる製品を開発し、上川町産材の需要が増えることで上川町や上川町林業の活性化を目指す。
- 2 年代にかかわらずカワイイと手に取ってもらえるデザインとし、高齢者へのプレゼントとして最適かつ実用的なものとする。

▶ ワークショップを通して上川町およびシラカンバ材を用いたオリジナル孫の手をPRする。

研究の内容および成果

【研究の内容】

I オリジナル孫の手のデザインを考える

デザインを考える上で「上川町と関連するデザイン」になるよう班員で話し合った結果、自然豊かな上川町に生息する野生動物をテーマにデザインを考えることになりました。そして、たくさんいる動物の中から、エゾシカ、キタキツネ、ヒグマを選び、オリジナルイラストを製作しました。また、動物に背中を搔いてもらおうということになり、背中を搔く先端部分を動物の手としました（図）。さらに動物の指の本数の違いを表現したり、動物によって搔き心地をかえたり、アクセントとして雪上に残った動物の足跡を柄に表現し、北海道らしさを施すこととしました。



図 野生動物のデザイン

つぎに、製品の大きさですが、すでに商品化されている孫の手の大きさを調べて検討した結果、つぎのように設定しました。

長さ 450mm・幅 25mm・厚さ 5mm

III ワークショップ用の製品を考える

試作品のままでは工程が難しくワークショップに不向きです。そこでワークショップ用の製品を考案しました。搔く先端部分は曲げずに丸棒で代用し、ストラップもつけました（写真5）。



写真5 ワークショップ用の孫の手

II 試作品を完成させる

①孫の手本体の製作

レーザー加工機を用いて彫刻・切断をしました。全体的に優しい雰囲気で、シンプルな仕上がりとなりました（写真2）。



写真2 製作した孫の手の本体

②先端部分を曲げる

先端部分の湯せんを15分してから、クランプを用いて一定間隔でゆっくりと曲げていきます。このままの状態で一晩放置してみると、先端部分がしっかりと曲がっていました（写真3）。



写真3 先端部の曲げ作業

③試作品の完成

紙やすりで全体を磨き、動物の色に合ったレザーのひもを持ち手部分に通して完成です（写真4）。



写真4 完成した試作品

IV ワークショップを開催する

ワークショップは、12月14日に上川町の公民館で、1月14日にはイオンモール旭川西店で実施しました。多くの方に体験していただき、上川町について知ってもらえる機会となりました（写真6）。



写真6 ワークショップの様子

今後の展開

昨年度からの活動により、改良を重ねながらオリジナル孫の手を完成させることができました。また、ワークショップを開くことができ、上川町やオリジナル孫の手のPR活動ができました。かつて林業の町として栄えた上川町に、木製品開発を通して新たな風を吹き込めるよう今後も活動を継続していきます。